



「地名はおもしろい！ その2」

前号は、「ひおか」についての“ぶらり”でした。今回も地名について、加古川を訪ねます。加古川の地名には難読地名といわれるものがあります。例えば、神吉（かんき）、国包（くにかね）、投松（ねじまつ）、神野（かんの）、新野辺（しのべ）、古大内（ふるおうち）、鼎（かなえ）、砂部（いさべ）、神木（こうぎ）、葉栗（くすくり）などです。そのうち、神野は、もともと「加納村」で、加納は別所・別府・別納などの地名同様、「追加開墾を特に許可された土地」ということで、その新開地に租税を追加納入させたから名がついたといわれています。投松は、播磨及び兵庫県全域で語り継がれる法道仙人伝説にまつわる地名です。



全国的に存在する地名として、新在家（野口町）・別府（別府町）があります。新田開発された土地につけられるもので、新在家は特に全国各地に地名が存在します。

加古川・高砂両市にまたがる地名として米田町があります。1950年代の昭和の大合併時の1953(昭和28)年、町協議会は高砂町、荒井村、曾根町、伊保村との合併に同調することに決定します。その後、加古川市の首脳部、関係県会議員が県議会に陳情書を提出し、船頭地区の分町を申し入れます。その後1956(昭和31)年、兵庫県合併審議会の裁定の結果、米田町が誕生します。

最後に、加古川市で最近(2004年)新設されたのが平岡町つつじ野です。JR東加古川駅東側に開発された住宅街です。地名を紐解くことは、地域をより深く認識することにつながり、愛着をより感じる手立てになります。加古川北高校への愛着もよろしくお願いします。